

能組

連吟

賀茂

赤井 前立 塩谷 前田 立花 飛南

仕舞

山 赤 山 赤 山 赤

地謡

上野 雄介 生一 知哉 小西 弘通 水田 雄晤

通杜玉邨

仕舞

山 赤 山 赤 山 赤

舞離子

山本 清辻 水 皓 赤 中 井田 啓弘 三美

融

仕舞

地謡

大槻 裕一 今村 哲朗

山本 正人 井戸 和男 池内 光之助

田二人

村キリ

武 富 康 之 上野 雄三 赤松 禎友

地謡

上野 朝彦 梅若 堯之 梅若 修一 齊藤 信輔

阿 鶴 漕キリ 寺澤 幸祐

齊藤 信隆 寺澤 幸祐

〈休憩十分〉

舞離子

卒都婆小町

大槻 文藏 清辻 水 皓 芳 祐 昭 赤 井 啓 三

別習一調

地謡

山本 大薫 林本 波多野 上野 朝義 松浦 信一 浦野 朝義

歌

占

実改メ

梅若 桜雪

成田 達志

狂言

善竹 彌五郎

善竹 隆平

後見 上吉川 徹

魚説教

〈休憩十分〉

能

坂口 貴信 観世 三郎太 観世 清和

福王 知登 廣谷 和夫 喜多 雅人

大山 倉本 源次郎

杉 市 和

間善竹 隆司

後見 大槻 文藏 赤松 禎友 上野 朝義

地謡 長山 耕三 梅若 久徳

井戸 良祐 梅若 若若 梅若 若若 梅若 若若 梅若 若若

江

(終了予定十七時)

■演目のご案内

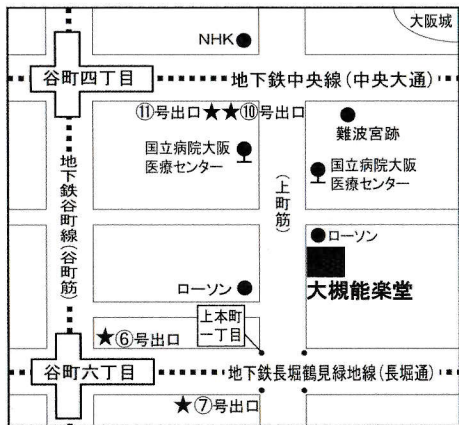
狂言《魚説教》(うおせつきょう)

出家したばかりの元漁師が、都へ向かう街道で出会った男は新しく建てた持仏堂の住持を探していました。運よく住持に納まったのはよいものの、早速に説経を頼まれて困り果ててしましますが、そこは元漁師、なんと魚の名前を使ってそれらしく説経にしようと思いつきます。

能《江口平調返》(えぐちひょうじょうがえし)

撰津国淀川畔の江口の里には、宿を乞うた西行法師に「仮の宿に心留むな」と、仏の道を論じた遊女は普賢菩薩の化身だったという説話がありました。その昔を偲んで西行の詠んだ歌を口ずさんだ旅の僧に、なぜ遊女の返歌も詠わないのかとがめた女は、江口の遊女の亡霊でした。その夜、僧が吊っている、秋の月冴えわたる川面に舟を浮かべて、遊女たちが姿を現します。舟は白象となり、その姿は普賢菩薩と変じる江口の遊女の清麗高雅。「平調返」は、「序之舞」冒頭の「序」の一部が秋の調子である平調になり、続いて高い調子の「干之掛」になるなど各所に特殊な演奏や所作が用いられます。(文・石淵 文恵)

●大槻能楽堂へのアクセス



会場アクセス

- 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車
⑩号出口を出て南へ約300m
(⑪号出口にエレベーター有り)又は
谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車
⑦号出口を出て北へ約350m
(⑦号出口にエレベーター有り)
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車
南へすぐ
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車
※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車